



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER 2002-2003

9月 ガバナー月信

No.3

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2760 2002年9月1日発行

織田信長画像



9月は、新世代のための月間です。

ガバナーメッセージ	2
「座談会」	4
新世代のニーズをどう掴まえるか	
「インタビュー」	8
R.I.青少年交換委員会在日委員	
R.I.世界大会に参加して	10
インターアクトクラブ地区協議会	12
ローターアクト指導者研修会	14
諮問委員会	15
知事・市長訪問	16
第1回ガバナー補佐会議	
地区RCC委員会、新しい仲間	
地区大会ご案内	17
文庫通信	18
出席報告	19

国際ロータリー第2760地区

ガバナー 岡部 快圓

〒460-0011 名古屋市中区大須2-21-47

大須観音宝生院内

TEL 052-229-8110 FAX 052-232-1023

E-mail : governor02-03@rotary2760.org

Governor Message

ガバナーメッセージ

ガバナー 岡部 快圓

みなさんこんにちは、お元気ですか、当地区の会員の状況ですが、6月末現在で5742名と大変な減少です。昨年度期首5975名の会員数でしたので、233名の純減となり、入会者の数を勘案すると、多くの仲間が退会したことになり、大変残念なことです。会長さん、幹事さん、役員の皆様、会員増強を是非ともお願い致します。

リチャードD・キングR I先会長がロータリーに入会する20の理由を挙げていますので、会員勧誘の参考にして下さい。



成る組織です。ロータリーで役職に就いて奉仕することは、いかにして指導者たちを奮起させ、影響を与え、導くかという、リーダーシップの大学教育のようなものです。

5. 地域社会の市民たること：ロータリー・クラブの会員なることは、より良い地域社会の構成員となることです。一般に、ロータリー・クラブは地域社会の最も活動的な市民から構成さ

れます。

1. 友情：ますます複雑化する世界で、ロータリーは、最も基本的な人間のニーズの一つである友人と親睦を提供します。これは1905年にロータリーが創設された2つの理由の中の1つです。
2. ビジネス上の発展：ロータリーが創設されたもう一つの元々の理由です。誰でもビジネス上の発展が必要です。ロータリーは全てのビジネス社会を網羅する横断的な組織です。会員は、あらゆる職業の人々が参加しています。ロータリアンはお互いに助け合い、団体として他者を助けます。
3. 個人的成長と発展：ロータリーの会員は、人間関係を発展させ、自身を切磋琢磨するため、教育を受け、個人的に成長し続けます。
4. 指導力養成：ロータリーは、指導者や成功者から

6. 教育の継続：ロータリーでは、毎週、地域社会、国、世界で何が起きているのかという情報を与えるプログラムが用意されています。さまざまな講演者が各人各様な議題について話します。
7. 楽しみ：ロータリーは楽しい所です。大変楽しい所です。どの会合も楽しく、クラブ・プロジェクトも楽しく、社交活動も楽しく、奉仕も楽しいのです。
8. 人前で話す術の養成：どのロータリアンも「国際ロータリー」と書かれたピンを身につけます。ロータリーに入会する人々の多くは、人前で話すのを怖がります。ロータリーは人前で講演するための自信やコツを身に付けさせ、その機会を与えます。

9. **世界の市民たること**：地球上で、ロータリー・クラブのない所はほとんどありません。ロータリアンの誰もが194カ国・地域にある29,000のクラブへの出席を歓迎され、奨励されています。各自の地域社会で、世界の地域社会で、直ちに友人を持つことになります。
10. **旅行中の援助**：ロータリー・クラブは至る所にあるため、これまでに多くのロータリアンが、旅先で、医師、弁護士、ホテル、歯科医、助言など必要なものをロータリーを通して援助を得ています。
11. **余興**：どのロータリー・クラブや地区にもパーティーや活動があり、会員の職業人生に気分転換をもたらしています。ロータリーの開催する学術会議、大会、協議会、研究会では、ロータリー情報、教育、奉仕の他に余興を提供して印す。
12. **社交術の養成**：毎週、そしてさまざまな行事や活動の場で、ロータリーは各自の対人、社交術を養成します。ロータリーは人が好きな人々のための場です。
13. **家族のためのプログラム**：ロータリーは、世界最大の青少年交換プログラムを提供しています。すなわち、将来のロータリアン候補者のための高校や大学のクラブ、配偶者のためのクラブやプログラム、家族が家族であることの価値を高め、発展させるための活動。
14. **職業技能**：各ロータリアンは、各自の職業や専門職務の発展に貢献すること、すなわち、委員会で奉仕することや、各自の仕事や職業に就いて青少年に指導することが期待されています。ロータリーは、会員ひとり一人がより良い医師、弁護士、教師などになるよう援助します。
15. **倫理観の醸成**：ロータリアンは各自の倫理基準である4つのテストを実行します。ロータリアンは、職業上及び個人的関係において倫理的であることが期待されています。
16. **文化的意識**：世界中で、時際ロータリーにはほとんど全ての宗教、国家、文化、人種、信条、政治的信条、言語、皮膚の色、民族性が存在します。

あらゆる背景を有する最も著名な世界市民の断面図です。ロータリアンは他の文化について理解し、至る所で人々を愛し、人々と共に働くことを学びます。その過程において、自国のより良い国民となります。

17. **名声**：ロータリーの会員は卓越した人々です。実業界、専門職務、芸術、政府、スポーツ、軍事、宗教、その他あらゆる部門の指導者です。ロータリーは世界最古の最も信望の厚い奉仕クラブです。会員は、管理職、経営者、専門職者、すなわち、意思決定を行い、方針に影響を与える人々です。
18. **好人物との交際**：何にもまして、ロータリアンは好人物です。地上で最も好ましい人々です。彼らは、重要人物であることは好ましいが、好人物であることのほうがもっと大事だという方針を堅持する重要人物です。
19. **「公式信条」のないこと**：ロータリーには密かな握手も、秘密の方針も、公式信条も、秘密の会合や儀式也没有。ただ他者を助けることの重要性を信じる男女のための開かれたクラブです。
20. **奉仕する機会**：ロータリーは奉仕のクラブです。その事業は人、その製品は奉仕です。ロータリアンは地元地域社会と国際地域社会の両方に奉仕しますが、このことは、おそらくロータリアンになる第一の理由でしょう。すなわち、誰か他者のために何かをする機会、その過程での自己実現。自己の人生への報い。これは大変やりがいのあることです。

**「最もよく奉仕する者、
最も多く報いられる」。**

クラブを強化し、職場に、地域社会に、世界に、

慈愛の種を播きましょう。

新 世 代 委 員 会 座 談 会

テーマ

新世代のニーズを どう掴まえるか

出席者 委員長：保浦文夫

委 員：岩瀬康彦（インターアクト委員長）

加藤康治（ローターアクト委員長）

松井善則（ライラ委員長）

進行係：地区副幹事 堀江英弥、浅井隆宣

司会 本日は皆様、お集まりいただき有り難うございます。早速ですが、9月は“新世代のための月間”です。まだ新世代委員会というものの自体がロータリアンにいま一つ、浸透していないように思いますがいかがでしょう。

保浦 『青少年活動』から『青少年奉仕』という言葉をこれまで長く使ってきたせいか、1999年に『新世代』委員会に名称変更以降、「新世代って何？」とおっしゃられる方はまだまだ大勢おられます。

司会 インターアクト、ローターアクト、ライラ、この3委員会と新世代委員会の関連も少々、理解しにくいですね。

保浦 初めに『新世代』の定義を明確にすべきかと思いますが、幼児を含めた若者、つまり0～30歳の“幼児を含めて”という部分を、まずはご理解いただきたいですね。またインターアクト、ローターアクト、ライラとの関連ですが、「青少年奉仕」の時代は地区青少年奉仕委員会の小委員会でしたが「新世代」に変わり、3委員会は(小)が除かれ、それぞれ独立した委員会となり、地区「新世代」委員会の構成委員の一員として各委員長が所属することになりました。3つの委員会はそれぞれの専門分野で、具体的な地区事業を実践しています。地区新世代委員会は、その3委員会委員長を含めた委員で構成され、いわば“新世代全般のまとめ役”として全事業に参画する、3委員会の統括機関のような側面も持っているわけです。

岩瀬 インターアクトの対象は高校生を主体とする14～18歳、ローターアクトは18～30歳、ライラは指導者養成ですが、それで新世代を網羅しているかといえばそうではありません。限定された個別の問題に関しては各委員会が対応できますが、新世代というフレームからすれば問題も大きく、当然、各委員会の連絡調整が必要になってくるわけです。

保浦 具体的に申しますと「新世代のためのロータリー・プログラム」実践を目的に、各クラブとの情報の交換や共有化を推進していく役目と言えるでしょう。ですから3委員長さんも、インターアクト・ローターアクト

・ライラの専門分野に止まらず、新世代に関わる青少年の非行、虐待、教育など、地域と青少年、ロータリークラブと地域の青少年など、さまざまな問題を抱えており、3委員会委員長が専門分野の立場から、様々な形で提案し、協力し、情報交換をしていこうというわけです。

司会 では、そうした新世代に関わる諸問題に対して、新世代委員会及び3委員会では、今後、具体的にどう事業を展開されるのでしょうか。あわせて、意見交換をお願いします。

保浦 新世代委員会として統括的な立場から申し上げれば、“新世代のために大人たちは何をすべきか”“新世代のニーズ(要求)をどう掴まえるか”具体的な方法論や活動を集約しかねているのが現実ではないでしょ



うか。各クラブの「青少年奉仕」活動には素晴らしい事業もあります。しかし、単なる継続事業とし「形骸化」された事業も見受けられます。

本来、人と人との関わりの中から感動が生まれ、感謝の心が芽生える。あらゆるコミュニティ（集団）が“人の心や哲学を養う”。家庭、学校、地域社会などルール（規律）を前提に“若者と大人達が交流できるコミュニティ”が重要なことは誰しもが望んでいるはずで。現実のコミュニティ（社会）は物質文明を基盤に全国画一化され、経済優先の“物やお金”が人間の満足の尺度となり、お互いの居場所を自己の感性で作る“エゴ”とも呼ばれ“ルールを失いかけている”“心を癒す故郷も消えた”“日本国民である誇り、必要性すら消えつつある”本来のコミュニティは崩壊寸前にあります。

岡部ガバナーの地区方針である“地域の伝統、文化を後世に継承”“地域に密着した奉仕活動”は、新世代事業の理念として最も相応しい方針であります。地域に根ざした歴史や伝統を基盤に社会のニーズ（要求）に応える“新しいコミュニティの創造の実践”独自の文化を基盤とする、各クラブの“新世代の理念の確立と実践”であります。従来の行動や理念の良いものは残す、単なる過去の改革に止まらず“壊すことから始める勇氣ある決断”が21世紀の新世代に関わる実践プログラムと信じます。

岩瀬 インターアクト委員会では、先ほど申し上げたように14～18歳の少年から青年期に移る人達を対象としています。日本では高校生が主で、圧倒的に学校の枠内で活動されることが特色です。但し、そうした枠の中では、校長先生の意向や顧問の先生の思いが込められているわけですから、各インターアクトクラブに対してロータリアンが直接働きかけるのは難しく、それらを含めて調整をつけていくのが、地区委員会の役割です。また、今の高校生が突き動かされる言葉は、「国際」と「奉仕」です。いずれも他者との出会いから自分を見つめ、様々なことに気づききっかけとなるものですが、それだけでは行動にいたりません。気づいたこと、課題と思ったことを行動に結びつけるキーワードは「仲間」「連帯」です。「私もこう思う。あなたもそう思う」と思った時に、初めて活動が起こされる。そうしたつながりを、インターアクトクラブという表現の場、あるいは学校の枠を超えた地区の中で、我々は結びつけていくということじゃないかと思います。

加藤 ローターアクトですが、歴史は古く、誕生して35年になります。1968年にノースカロライナで認証され、翌年には岡崎に発足しています。現在、当地区には9クラブあり、人員は170～180名。発足当初はロー

タリアンの子弟がほとんどでしたが、企業派遣も増え、今ではその割合は半々でしょうか。活動内容は月2回の例会、年次大会、アクトーズミーティング、そして名古屋・三河・尾張ゾーンとの親睦など、様々な行事をロータリークラブ同様に展開しています。ただ18～30歳は時間に追われる世代です。学生は2割弱で、大半が社会人として勤めながらアクトの奉仕、親睦に励んでいます。そのため例会は平日の7時、8時から、行事は土日にやらざるを得ません。今の若者の気持ちを考えれば、その貴重な時間に奉仕活動や親睦をあてなければならぬわけで、それは今後、解決していかなければならない問題だと思います。

司会 ローターアクトには、将来のロータリアンを育成する側面もありますよね。

加藤 ええ。主管するクラブによってまちまちですが、アクトがロータリアンになるケースが比較的多いです。ただ30歳という年齢制限もあって、卒業後、ロータリーに入るまでの年齢をどうつなぐか。これも一つの課題です。学生時代からローターアクトで経験を積み、やがて社会へ出て期待される人材をロータリアンがどうサポートし、彼らの自主性をどう育てていくか。ロータリアンとして、クラブとして、彼らをよほど認識してやらないと理解できないだろうと思います。

司会 ではライラ委員会はいかがでしょう。

松井 ご存じの方も多いと思いますが、ライラは“Rotary Youth Leadership Award (RYLA)”の頭文字を取ったものです。活動は年に1度、1泊2日のセミナーを行ないます。インターアクト、ローターアクトとは異なり、事業はライラセミナーを行なうこの2日間だけですが、事前準備は忙しく、過去10回のセミナーもホストクラブの大変な労力によるものです。しかしそうした体制では、リーダーシップなどの考えが育たないと思うんです。そこで今年度は岡部ガバナーの了解も得て、従来ホストクラブが関わってきた企画から運営を、地区ライラ委員会と若い人達にカリキュラムや座談会のテーマも考えてもらおう参加型のセミナーにしたいと考えています。その主題も道徳や修身など、心の問題に焦点をあてることで、参加者全員に感動を持って帰ってもらいたい、というのが今年度の趣旨です。また、今回もそうですが、委員長の所属クラブがホストを務めてきましたが、これも変えていくべきでしょう。やはりどこのクラブでもやれるようなセミナーに近づけていきたいと考えております。ちなみに今年度の日程は来年の5月17、18日。場所は、前年度と同じ高蔵寺の労働者研修センターで行ないます。都心のホテルでは経験できない、自然とのふれあいに満ちた有意義な体験をしていただきたいと計画してい

る最中です。そこで参加者をご推薦くださるクラブの方々にお願いしたいのは、何事にも興味のある子、好奇心を持てる子をご推薦いただきたいということ。多少、問題のある子でも構わない。優等生よりも積極的に何かを学んでいける子ども、という視点で選んでいただければと思います。

岩瀬 その問題のある子、というのには、ちょっと前提が必要だと思います。まず、どんな子を受け入れるにしても、彼らの根底には自分を認めてもらいたい、という欲求があります。大人たちが眉をしかめるようなファッションや行動も、実はその現れであって、問題はあるかもしれないけれども、個性なり、性格的なものを、あるがままに受け入れてくれる大人の存在感を彼らは必要としているわけです。ですから小さなことでも大人たちが認め続けることで彼らは自信を得、やがてその積み重ねが「よし、やってみよう」という方向に結びつく。通常、ライラに参加されるメンバー達は、そんなプロセスを大方、経験しています。ですからそこをよく理解した上で、どんな子どもとも一人ひとりときちんとやり取りしていかなければ意味が無いんじゃないでしょうか。もちろんこれはセミナーに限らず、普段の親子関係にも当てはまることです。ただし、自分の責任ある子どもは保護対象であって、教育対象にはなかなかならないんですよ。だから抱きか

かえるか突き放すか、そのどちらかになってしまう。しかし、わが子を認めるということが成されないと、親子の断絶が始まります。大人が認め続けるからこそ子どもは自信を持ち、意欲を持って生きていける。その「意欲を持って生きる」というのが、私は大人という定義だと思うんです。結局、そのためのプロセスを私たち大人は疎かにし過ぎたのかもしれないね。

保浦 かつては、家庭と地域社会は密接な関係にあり、家庭や地域社会の年中行事など、大人達のルールの中に子供達にも役割があり、大人達の社会に参加してきた。“自らの手で創る行為”や“汗を流すことの喜び”など地域の文化や自然環境と様々に関わり、試練や経験の中から仕組や哲学を学ぶ子どもから大人になるプロセスがあった。子供から大人になる節目、大人として自立する自覚と責任を社会と共に認め合ってきた。

今の時代、家族は子供達中心のルールで“買う”“売る”で全てがまかなえ、創る喜び、汗を流すことから

受ける感動、社会との関わりなど殆ど無関係の状態にある。“子供のままの大人”とも言われ、“大人の問題”と言われる由縁ですね。

加藤 先ほど委員長も「形骸化」とおっしゃいましたが、ローターアクトに限らず、地域にも青年団やクラブ、いろんな団体があるんです。しかし目的を持ち、成長していくかつての時代はそれでよかったのですが、新しい時代を迎えた今、同じようなやり方を若者が受け入れてくれるだろうか。そこにも一つの形骸化があるような気がしてなりません。これをどう解決するかは、上に立つべき人間が考えを新たに取り組まなければ難しいんじゃないでしょうか。

岩瀬 それに新世代、とくに子どもたちが両親や先生以外の大人と出会い、時に意見を戦わせていく機会も少なくなっていますよね。また、一部の学者が青春の期間を“トンネル”と表現していますが、そのトンネルもどんどん長くなっている。しかもその先に明るい社会があれば、救いはあるのですが、今、その社会は

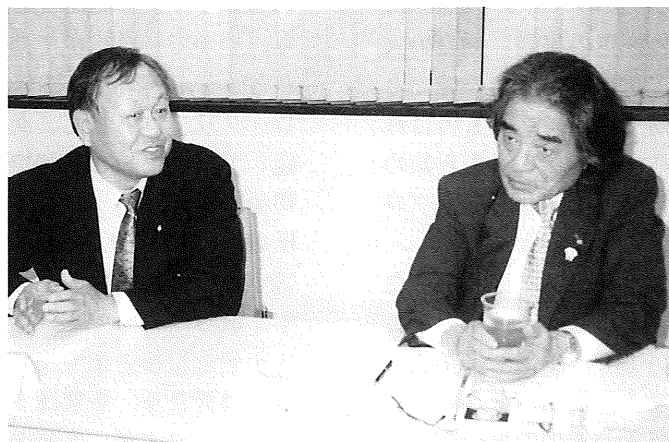
真っ暗です。彼らにしてみたら、子どもであり続ける方がいいんですよ。それが様々な部分に影を落としているわけですし、青少年問題の原因の多くは、これを考えることである程度、理解できるんじゃないでしょうか。

保浦 先ほどの「ローターアクトの例会が夜、遅い時間になってしまう」という

ことですが、ロータリーの提唱クラブであることを理解して頂きロータリアンやロータリアンの属する企業は理解しもう少し早い時刻に開会できるよう積極的に協力する体質が、社会に職業奉仕の精神を普及し、青少年の社会参加意識を高揚させる、大変重要なロータリアンの意識です。

また、地域社会も、大人が作り上げたものを与えるのではなく、子どもたちから生まれる新しいコミュニティを理解する態度も必要でしょう。

ロータリーと青少年達とが一緒になって調査や分析、企画された事業こそ、青少年の参加意欲を掻き立て、若者の持つ素晴らしいエネルギーが“新たなコミュニティ創造”の引き金となり、理念の継承とアクトやイベントの新鮮さが期待できるのです。“ロータリーは口や手を出してはいけない、若者に自主性を”と奇麗ごとを言っているが、これは大人の勝手な理論であって、若者達は大人達のことを本当は知りたがっているし、



大人達の適切なアドバイスならば聴く耳を持っている。ただ、適切なアドバイスが出る大人達がどれほど居るのか疑問ではあるが、ロータリアンは違う。ロータリークラブから多くのことが学べるからです。

岩瀬 子どもたちが他者との出会いやふれあいの中で少しずつ成長できるような、そんな居心地よい環境、居心地よい活動の場所を作ってあげる。それがインターアクトであり、ローターアクトであって重要な役割だと思っています。またロータリアンは、そんな若者たちと出会い、行動を共にする機会を少しでも増やしていくべきなんじゃないでしょうか。

松井 その点をライラで申しますと、各クラブの新世代の委員長が参加者を会場まで連れてくるわけですが、およそ7割の方がすぐに帰ってしまわれます。とても残念なことです。子どもたちのディスカッションを見学するなり、他の新世代のメンバーとひと晩、意見を交わすなり、そういう部分からも視点を変えていただければ、随分、違ってくるんじゃないでしょうか。

保浦 ロータリアンの意識が問われるべきでしょうね。

そしてこの現実を地区の委員会として、各クラブにいかにかPRすべきか、委員会の責任ともいえますね。

岩瀬 78クラブ、名称は違ってそれぞれに新世代委員会を持っているわけですね。その活動の中で、せめて所属する委員なり委員長なりが自分の家族や従業員以外の若者たちと出会い、行動を共にする機会を1年で最低1度は持つてくではないか。そんな提言は、今後も続けていきたいですね。

司会 そのPR方法ですが、具体的にはどんな方法をお考えですか。

加藤 ロータリアンそのものに喚起を促すということとはなかなか難しいことですが、ローターアクトでは新しい媒体としてホームページを立ち上げようとしています。ロータリアンにはついていけない若者社会です。しかし、彼らはこういう媒体から仲間を見つけていくという気持ちを持っているんですね。そこをどうバックアップするか、それさえ見つければ乗りきっていくだろうし、そこに新しい流れが生まれてくるんだと私は思います。

保浦 それがIT時代の「むら社会」ですね。そういう形で新しいコミュニティが出現する。昨年名古屋西RCが取り組みましたね。

松井 ただIT社会と申しますが、その一方で、子どもたちの読み書きの能力が低下するという現状も忘れてはならない気がしますIT優先で人間の心が疎かになってはいけないと思うんですが。

岩瀬 まあ、ITそのものは一つの合理化であり、良い面も悪い面もあるわけですが、ネットワーク化されていくと、人間関係上のことを含めた意味を持ってきます。ただ、それがどこに進んでいくのか。私たちはどう進めていくのか。この部分に対する論議は同時にされないといけないでしょうね。

松井 その論議を今こそすべきですよ。

加藤 先日ちょうど、ローターアクトの指導者会議を行なったばかりですが、約40数名の参加者のうち、インターネットをやっているのは約8割ですね。彼らはネットで横のつながりを執っています。毛嫌いしているのは大人社会だけなんです。

岩瀬 そういう意味では分断化された新世代をつなぐツールは一つ出来ているということですよ。ならば、

そのツールを使って、新世代をどう私たちは導いていくか。それについての論議はこれからですね。

保浦 IT社会が良い悪いに関わりなく、人間は本来の人間のまま変わることはないのです。こうした状況をどう考え、ロータリアンはいかに対応していくか、知識も必要でしょう。ITを含めた新しい文化の領域

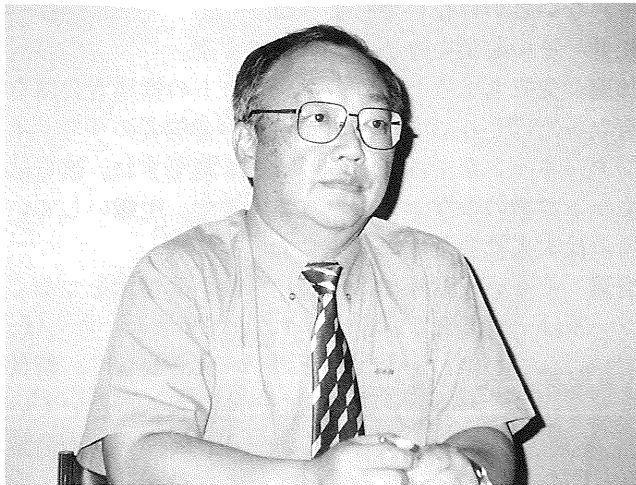
が広がり、感性と価値観が新しいコミュニティを誕生させるなど、新たな理解する努力が大切じゃないでしょうか。今回も岡部ガバナーがボトムアップを主張されています。本来ロータリーはボトムアップそのものですが、前年度と同じことさえすれば過ぎていく、そういう体制がこういうボトムアップが叫ばれる事態を招いたのかもしれない。地区新世代委員会は、本当に各クラブの事業に役立っているのだろうか、形骸化された単なる集会であってはならないと意識しています。新世代に関わる理解と造詣の深い岡部ガバナーのご指導で、ライラを含め地区委員会の新たな活動方針を見出したいと考えています。ぜひロータリアンの皆さん、新世代を取り巻く現状を認識し、価値ある事業展開をしようではありませんか。皆様方のご理解とご協力により、地区委員会は各クラブとの情報の共有化に努力して参ります。



Interview



青少年交換プログラムを通し、 世界と日本を結びグローバルに活躍。



国際ロータリー青少年交換委員会
R.I.在日委員
神田 憲

インタビュアー：地区スタッフ 前田 勝夫（月信担当）

PROFILE

1946年生まれ。1985年、名古屋大須ロータリークラブのチャーターメンバーとして入会。1991年、地区青少年交換委員会委員に就任。以後、10年余にわたる地区青少年交換プログラム事業での功績が認められ、2000年に初めて国際ロータリー青少年交換委員会R I在日委員に就任（日本のロータリーが発足して以来二人目である）。現在、国際ロータリー青少年交換委員会R I在日委員、第2760地区国際奉仕委員会委員を兼務。

前田：2000年度に初めて国際ロータリー青少年交換委員会の日本代表となられ、今年度、再び就任されたわけですが、各国の代表委員というのは十数名だそうですね。

神田：今年度は私を含めて12名です。アメリカ、カナダ、台湾、イスラエル、オーストラリア、イギリス、南アフリカ、タイ、ブラジル、そして日本の10カ国から選出されています。

前田：なるほど、約120万人いる世界中のロータリアンから選ばれた12名というわけですね。委員を選出する国というのは、もともと決まっているのでしょうか。

神田：いえ、R I 会長が適宜に選んだと伺っています。ですから、なぜ私が選ばれたのか。R I 委員として何をすれば良いのか。前回選ばれた時は訳がわからないことばかりでした。

前田：しかし神田さんの場合、地区の青少年交換事業に長く貢献されてきたわけですし、英語も堪能でいらっしゃる。その辺りが選出の理由かもしれませんね。

神田：幸い本業が貿易業ですので、言葉の面では多少役には立っていますが…。長年ロータリー世界大会に参加し、討論にも参加してきた背景もあるのかなと考えています。

前田：地区で活躍されるようになったのは1991年ですか。ロータリアンでも、これほど長く青少年交換を続けてこられた方は少ないと思いますが、そもそも、この活動に取り組まれたきっかけは何だったのでしょうか。

神田：他の地区ではもっと長く就任されている方もいます、当地区でもいらっしゃいました。きっかけは1990-91年、娘がオーストラリアへ留学した時にこの

プログラムでお世話になり、その御礼奉公のつもりで関わることになったと思います。気づけば10年、早いものです。

前田：ですがその反面、青少年交換は難しい側面も多くあるように思いますが。

神田：確かにそうですね。まず、好きじゃなければできない奉仕活動でしょう。たとえば受入学生の出迎え一つにしても、日に4度、空港を往復することもありました。また、青少年交換は何より家族の理解、とくに奥様方の協力を必要とするものです。私がこれまでやってこられたのも女房の理解があったおかげですよ（笑）

前田：交換事業の意義については、また後ほど伺うことにして、具体的にR I 在日委員というのは、どんな活動をされるのでしょうか。

神田：R I 会長直属の委員会に所属する立場となります。ご承知の通り、日本は現在35地区に分かれていますが、各地区の青少年交換委員長の皆さんにR I 会長からの指示を的確に伝え、また各地区からの青少年交換プログラムに対する要望を吸い上げて、R I 会長やR I 本部にフィードバックする役割があります。それから交換先の相手国が見つからない場合、世界に連絡を取り、交換地区を探すことも仕事の一つです。また世界大会のプレコンベンションの設定などです。

前田：それは大変なお役目ですね。

神田：今はEメールもありますし、メーリングリストで全世界と瞬時につながる時代ですから私の労など大したことではありません。ただ、東京で年2回開催されるガバナー会、全国青少年交換委員長会議、年1回

全国の地区持ち回り開催の全国青少年交換研究会、日本各地区の地区大会、世界で開催される4回の青少年交換会議、世界大会など、各国で開催される数々の会議への出席も求められますので、そのスケジュール調整がなかなか難しいですね。けれどもいろいろな人々と再会できる楽しみには替えられませんね。

前田：ちなみに世界大会ではどんな任務があるわけですか？

神田：世界青少年交換委員会のセッションでモデレーターを務めることです。1993年のメルボルン大会以来インディアナポリスを除き2002年のバルセロナまで世界大会のプレコンベンションに出席し、その間2度のモデレーターと1度のパネリストを務めました。

前田：やはり共通語は英語ですね。

神田：はい。メイン会場では日本語、フランス語、スペイン語の同時通訳が付きますが、分科会では英語だけです。皆さん討論に熱がこもってきて早口になってくると、私もついていけず苦勞しております（笑）

前田：しかし、神田さんは日本と世界を結ぶパイプ役を見事にこなされている訳ですし、日本における青少年交換プログラムの要といっても過言ではないように思います。

神田：長年の地区活動の延長です…ただ、役割としてはもう一つ。R I 会長から「アジアを総括し、韓国や台湾の青少年交換の高揚を図るよう」との指示もいただいています。それで一昨年、ようやく韓国と日本との青少年交換プログラムを初めて実現させることができましたが、さらにその輪を拡大するため、先月訪韓して台湾との橋渡し役を務めてきました。その結果来年には釜山と台北との、初の青少年交換が行われる予定です。

前田：日本国内だけでなく、アジア全体、そして世界を見渡しながらの奉仕活動というわけですね。やはり誰にでもこなせる仕事じゃありませんよ。

神田：他に11名のR I メンバーもいますし、ロータリーを通しこれまで世界中に広がった友人・知人の輪、また当2760地区青少年交換委員会のメンバーにもその環境を作って頂き、また名古屋大須クラブの会員の皆さんに支えられてなんとかやっています。

前田：その辺りが在日委員の仕事の魅力、醍醐味なんではないでしょうか。また、先ほども少しお話しいただきましたが、ご自身がお感じになられる青少年交換事業の意義とは何でしょう。

神田：R I 在日委員というより、外国の人々と接するのはとても好きですし、目の前でこの事業の奉仕の実態が見えるということですね。近年、毎年日本では約350名が交換（派遣・受入）され、約7,000名もの高校生がこのプログラムを活用し世界に羽ばたいています。また、ホストファミリーの皆さんには、自分の時間をさいて子どもたちと接していただく苦勞を強いることも少なくありません。ですが、成果の大きさは素晴らしいものがあります。派遣した子どもがいかに成長して帰ってくるか、受入れた子どもが日本に対してどれほど理解を深めて帰っていくか。その姿こそが、この事業の意義を物語っているように思います。

前田：ローテックス（帰国学生）のまとめ役もされていますよね。

神田：当地区がこのプログラムをスタートした1968年から2001年までの34年間のローテックスの名簿を、各クラブや関係者の協力を得て2年掛かりで今春作り上げました。8月24日にはその記念すべき「第1回ローテックスの集い」を開催します。

前田：ロータリアンのお子さんも多いことと思います。

神田：もちろん一般の高校生も含まれますが、ロータリーの奉仕活動の中で唯一ロータリアンの子弟（高校生）にも還元できるプログラムなんです。

前田：確かにそうですね。考えてみれば親という、また別なスタンスで取り組める奉仕活動ですし、親としての教育的な視野も広がることでしょね。

神田：だからこそ、このプログラムの存在をより多くのロータリアンの皆さんに知っていただき、募集活動に反映させていただけたらと思います。こうしたプログラムは、さまざまな団体で実施されていますが、ロータリアンがホストファミリーとして1年間お世話すること、また地区青少年交換委員会のオリエンテーションやローテックスなどの協力で留学前後のサポート体制を整えていること、この点は誇るべきことでしょう。

前田：費用面では恵まれているんでしょうか。

神田：学生（保護者）の負担は、留学先への往復の旅費と保険費用のみです。これほど充実したプログラムでありながら、海外と比べると、日本国内の認知度や意識は低くまことに残念なことです。また、派遣国も日本人は英語圏への希望者が圧倒的に多いですが、英語圏以外に目を向けることも大切なことで、近年少しずつこの傾向が広がりつつあり喜ばしく思っています。

前田：逆に日本への留学を希望する学生は多いですか？

神田：第2希望以降に挙げられることが多いですね。なかなか希望通りの国には行けません、これは派遣学生にも同じことが言えます。やはり今後は英語圏／非英語圏との偏見・格差のないようにしていけたらと思います。

前田：では最後に、ご自身の抱負とロータリアンへのメッセージをお願いします。

神田：私自身の抱負としましては、今後も窓口として経験を生かしながら、日本と海外の橋渡し役として取り組んでいきます。また、青少年交換プログラムは煩わしい面もありますが、国際親善と国際理解、その成果の大きさに目を開いていただき、我々の将来を担う彼等（彼女等）に世界をみる機会を与えてあげるのがロータリアンとしての国際奉仕活動の一環であり、皆さんが積極的にこのプログラムに取り組まれ、ご参加いただければと思います。

前田：本日はお忙しいところを、有難うございました。今後のますますのご活躍をお願いします。

OUR YOUTH - OUR FUTURE

バルセロナ2002 R I 世界大会に参加して

地区副幹事 吉田 隆彦

岡部ガバナー夫妻はじめ、2760地区からも多くのロータリアン関係者が世界大会に参加されました。

今まで、世界大会に参加された事のない方、または今回は参加されなかった方には、今年度のブリスベン大会、次年度の大阪大会にご参加いただく為に、今回ご参加された方には、思い出していただく為に感じたことをつづらせて頂きます。

私は、昨年のサンアントニオでの世界大会をはじめニース、グラスゴー、インディアナポリス、シンガポール等、機会がある度に、楽しんで参加させていただいております。

今回のバルセロナは初めて訪れる地でもあり、胸躍らせて参加しました。

6月21日(金)、ミュンヘンからLH機で入国しましたが、驚いた事に機内は超満員で、補助席までお客が乗って来る状態でした。これは前日の20日がストで、スペイン中のフライトがストップした為の影響のようでした。

多分、このストの影響を受けられた方も多くあったかと思います。

ホテルチェックイン後、早速、会場に赴き登録を致しました。前もって申し込みをしておいた為、いたって簡単に受付を済ませ（前もって送られてきたID番号のカウンターで登録）ネ

ームプレートと大会資料を頂き、翌日の友愛の広場の設営等、会場付近を見てホテルに戻りました。

22日(土)は別会場、友愛の家（The House of Friendship）がオープンしました。外はすこぶる暑い状況でしたが、オープニングは、騎馬隊、ローカルダンス、音楽で華々しくスタートしました。

会場内外は約150の国々から集まったロータリアンがそれぞれ挨拶等を交わしておられました。また、会場内で当地区の名古屋東山RCの皆さんがスイスのロータリアンとバナーの交換をされている所にも出くわしました。

当日の夜は日本青少年交換のパーティがSANTS HOTELであり、各国から100名を大きく超える関係者で盛り上がりおりました。

23日(日)はいよいよ開会本会議—第93回年次大会の日です。早朝7時よりInter-Continental HOTELにて日本親善朝食会があり、岡部ガバナー夫妻もご出席されました。

9時からは青少年交換役員会議等があり、わが地区からも関係者の方がご出席されました。

もちろん、この間最終日まで「友愛の家」はオープンしており、各ブースでのお買い物や、食事ができました。



本会議場内ステージ



本会議場（Palau Sant Jordi）



バルセロナ市内の歓迎

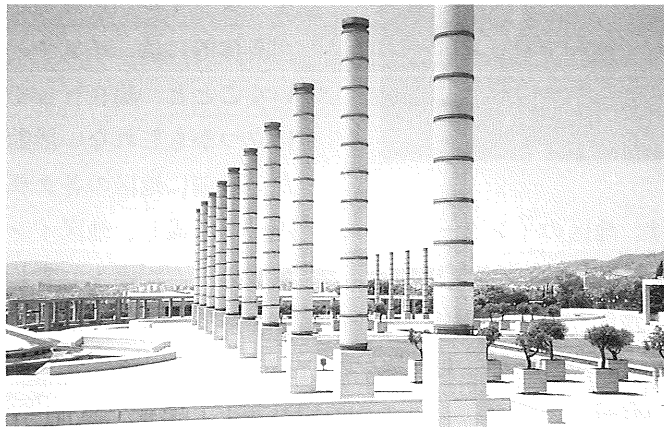
3時より開会式ですが、会場は少し離れたバルセロナ・オリンピックスタジアムの隣のPalau Sant Jordiで行われました。このドームは日本人建築家・磯崎新の設計で兜をイメージした物だそうです。

2時半より前奏音楽等アトラクションがあるという事で早めに行きましたが、もうすでにメイン席は埋まっており、開会前には大きな会場が埋め尽くされました。

早速、前後、左右のロータリアンと挨拶を交わしましたが、やはりアメリカの方が多く参加しているよう感じました。

各国のロータリー旗の入場の後、スペイン、アメリカの国旗の入場そして、The Flag of Rotary International とムードが上がり、リチャード・キング R I 会長のご挨拶がありました（スピーチにご興味のある方は、www.rotary.orgをご参照下さい）。また、喜劇俳優ジェリー・ルイス氏に対しロータリー名誉賞の贈呈がありました。

今回、会議後のアトラクションとしてルイス・コボ



モンジュイックの丘

ス・オーケストラのムーンリバー等の華麗なる曲とテノール、ソプラノを交えた音楽で、会場の雰囲気は最高潮となり、幕を閉じました。

私は、翌日の24日にバルセロナを後にしましたが、25日(火)には元ソ連大統領ゴルバチョフ氏の基調講演があり、その夜「Spanish Festa y Ole」のアトラクションがあり、26日(水)閉会式が行われました。

今回の世界大会で感じたことは、会場やバルセロナ市内での日本各地からのロータリアンとの出逢い、世界のロータリアンとの出逢い、また、ガウディやピカソ等、地元での文化との出逢いにおける感動でした。

詳細に関しましては、R I ホームページ（www.rotary.orgより Meetings）にアクセスして、Highlightsをご覧下さい。写真付きでわかり易く紹介されています。



友愛の家にて、
スイスのロータリアンと名古屋東山 R C の皆さん



日本青少年交換パーティー
〈ジャパンナイト〉



第13回インターアクトクラブ地区協議会

Smile

「スマイル」

地区インターアクト委員会 委員長 岩瀬 康彦



見直し、他者とのコミュニケーションをより深め、相手の立場に立って考え行動していくためには、自らの「持ち味」を深化させると共に広げ、肩肘張らずに心に微笑みが必要ではないかとの問題意識のもとにテーマを「スマイル」と設定されました。

具体的には、インターアクト同士の交流を深めていくことと、現在行っている活動はもとより、将来役に立つかもしれない活動の実体験をしていくことでした。事前に地区の各クラブへ呼びかけて「ハンドベル隊」を組織し、地区インターアクトでは初めての混成演奏チームが誕生しました。一方、分科会には、それぞれの領域で既にボランティア活動を展開している方々を中心に講師を依頼し、“腕を磨く”機会としたことです。

地区インターアクト協議会は、地区のインターアクトクラブに所属するメンバーはもとより、クラブ顧問、提唱ロータリークラブ関係者、地区役員・委員が一堂に会し、学び、出会い、交わることを目的とした、地区インターアクト活動の最大の行事です。

本年度は、桜花学園高等学校インターアクトクラブと名古屋東ロータリークラブを中心に、千種・昭和の3クラブがホストとなり、「スマイル」のテーマのもとに、7月20日（土・海の日）にウェスティンナゴヤキャッスルでインターアクト261人、顧問（教師）34人、ロータリアン311名、合計606人の参加のもとに開催されました。

私たちの日常行っているボランティア活動を改めて



基調講演

基調講演で講師はNHK手話ニュース・キャスターでおなじみの中野佐世子さんによる「思い込み・勘違い・あー失敗」。

高校生の時、ろう重複障害の男の子との出会いが契機となって手話通訳への道を進んだこと。同じ日本人、同じ時代に生きていても、皆それぞれ経験も考え方も異なること。それに気づかずに重ねたいくつもの失敗談。テレビ画面で見る印象以上に明るく、ユーモラスに話を進めつつ、数々のエピソードの中で、「ともに育ち、ともに生きる」ことの大切さを学ばされました。最後は会場と一体になって、手話ソング「ともだちになるために」の大合唱(?)が行われました。



全体会

全体会では、各分科会の参加者代表が実際に体験したことの感想を報告しました。介助を必要とする体験では、介助者との信頼関係が、また学ぶ体験では、技術的なものをどう自分のものとしていくかが今後の課題であることも語られました。

海外研修壮行会

瀧廉太郎の「花」のBGMとともに登場した今年度海外研修派遣（オーストラリア・ブリスベン）に参加する生徒たちが、ガバナー激励のあと、各クラブごとに決意表明。はじけるような笑顔の群が海外研修の成功を約束しているようなものでした。現地の交歓会等で行う予定のアトラクションの一端も披露されました。

事前研修会



分科会

分科会は8つの会場に分かれて行われました。「視覚障害者に対するガイドヘルプ体験」、「点字体験」、「車椅子体験を通しての障害の理解」、「手話体験」、「高齢者擬似体験」、「おりがみ体験」、「たのしい音楽療法」、「コミュニケーション技術としての手遊び・ゲーム・ダンス体験」など、各々講師を中心に十分な準備がされての体験実習です。広いホテルの廊下やロビー、一部はホテル周辺道路まで、アイマスクをしたロータリアンがインターアクトメンバーに手をひかれて歩いていたり、あらぬ方向へ行く車椅子の若者が出現したり、関節の動きを制限するサポーターに加えて錘を身にまとったロータリアンが階段を使って高齢者擬似体験を行っていたりなど、どの分科会に参加したメンバーやロータリアンも、有意義な体験ができました。



閉会式

ガバナー講話の後、IAC委員長より、次年度ホストをお願いする、尾関学園高等学校インターアクトクラブと小牧ロータリークラブが紹介され、岡部ガバナーと尾関学園校長、小牧クラブ会長が各々委嘱の握手をもって幕を閉じました。

ローターアクト指導者研修会

平成14年6月23日(日)

一宮市繊維卸会館

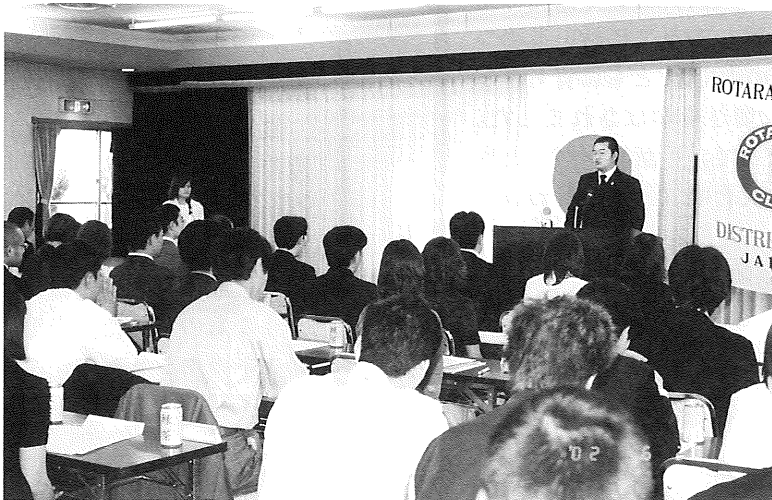
地区代表

江崎正和

地区代表ノミニー 田中孝一

今回の本会議は、地区新世代委員長の保浦文夫様、地区ローターアクト前委員長の近藤雄亮様をはじめ地区ローターアクト委員の皆様、前地区役員、そして、各9クラブの前期と今期の会長・幹事・ゾーン代表・ゾーン運営委員・地区実行委員長のローターアクターが出席し、前期の反省や今後の活動について話し合いました。

当日の本会議では、全体会と分科会との2部構成で行いました。



則と地区行事の確認、各クラブの活動状況などを、幹事部門では、幹事の任務や地区へ提出する書類や報告書の提出方法などの説明、地区事業とゾーン行事の紹介、今期幹事の抱負などを、ゾーン運営部門では、ゾーンで行うローターアクトの日、ゾーン親睦、

ゾーン合同例会の内容説明、前期、今期のゾーン代表・ゾーン運営委員会反省会などを、地区行事实行委員長部門では、地区行事の目的や内容について、地区行事の進行状況についての話し合いを行いました。短い時間の中で各分科会とも活発な意見交換ができたようです。今後の活動につなげていきたいと思っています。

近藤雄亮前委員長をはじめ、前地区ローターアクト委員会の皆様、前期一年間ご指導ありがとうございました。

最後になりましたが地区役員一同、1年間がんばっていきますので、ローターアクトクラブのご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



まず、全体会では、私たちから地区テーマ『BREAK OUR BORDER～自分の殻から抜け出そう!～』、地区方針『他クラブの行事に進んで参加しよう』、地区事業『ローターアクトを知ってもらおう』の3つの発表、地区役員の紹介、各クラブ会長からはクラブ方針演説を行いました。

次に分科会では、会長・幹事・ゾーン運営・地区行事实行委員長と4つの部門に別れ、前期の反省、今後の活動について、引継ぎなどを行いました。

会長部門では、地区事業活動の説明、地区運営規

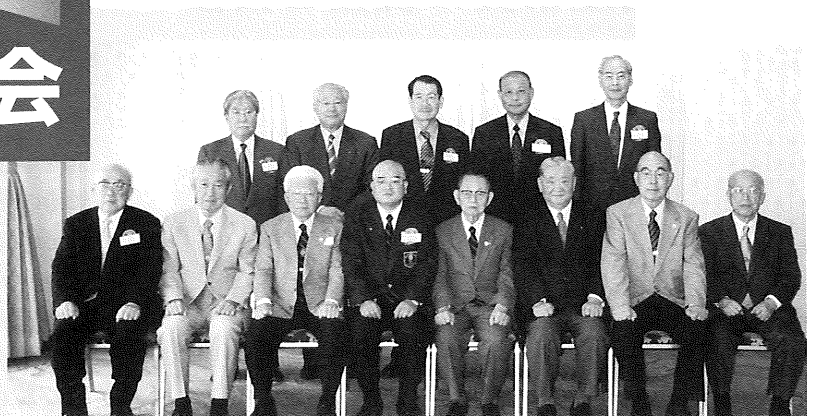


第1回 地区諮問委員会

日 時 2002年7月13日(土) AM.11:00～
場 所 名鉄グランドホテル12F

出席者

奥谷 P D G	福田 P D G	田中 P D G
加納 P D G	神戸 P D G	宮地 P D G
石川 P D G	松本 P D G	内藤 P D G
野村 P D G	福田 P D G	岡部 D G
豊島 D G E		



オブザーバー出席者

伊藤地区幹事 堀江地区副幹事 横井地区副幹事 瀧次期地区幹事

岡部ガバナー挨拶

新年度が始まりましたが、今年度 R I 会長の示されたテーマに従ってトップダウンでなくボトムアップに依って、各クラブが活発なクラブ活動と奉仕活動を展開することが不可欠です。そのためには地区委員会が情報やノウハウの提供とサポートすることに依って、各クラブの奉仕活動が活発に展開され、慈愛の種を播くことができますので、P D G の皆様方におかれましても宜しくお願い致します。

協議事項

- 2004～2005年度
国際ロータリー第2670地区ガバナーノミニー候補推薦日程の件
- 2002～2003年度
地区大会関連委員会委員の選任委嘱の件
(地区大会企画・信任状資格審査・選挙管理・大会決議・登録)
- 2002～2003年度
意義ある業績賞選考委員会委員選任委嘱の件
- 2002～2003年度
G.S.E.選考委員会委員選任委嘱の件

5. 2002～2003年度

米山奨学会評議委員ならびに理事推薦の件

6. その他

盛田 P D G の万博委員会の顧問就任の件

報告事項

- 2002～2003年度のための地区協議会報告ならびに決算報告の件
- 2002～2003年度地区大会プログラム
ホストクラブ実行委員会の件
- ガバナー補佐日程の件
- ガバナー月信申込状況の件
- 2002～2003年度 I.M.の日程とリーダーの件
- 第15回インターアクトクラブ海外研修旅行の件
- 地区主要行事日程の件
- その他
地区事務所事務局長の件
新クラブ(愛知長久手クラブ)承認の件
ロータリー財団の寄付の件
ポリオプラスの件

新しい仲間

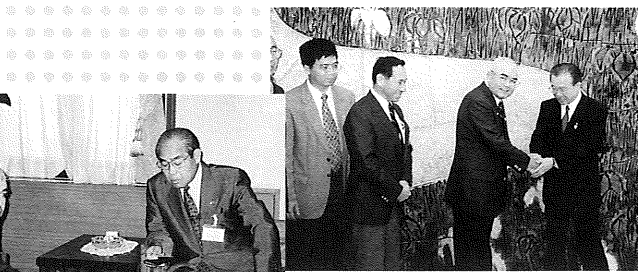
竹内 一平 (名古屋)
高野 茂徳 (名古屋)
若杉 和正 (名古屋)
安藤 豊 (名古屋)

松本 学 (名古屋)
田代 彰男 (名古屋)
滝 茂夫 (名古屋)
横田 格 (名古屋)
村田 達哉 (豊山一城北)
鈴木 康弘 (豊山一城北)
宮崎 信次 (名古屋瑞穂)

山田 重秋 (名古屋瑞穂)
角谷 信二 (碧南)
清澤 聡之 (碧南)
石川 唯司 (碧南)
竹中 誠 (碧南)
岡本 一彦 (名古屋みなと)
飯田 秀雄 (名古屋みなと)

吉良 伸一 (名古屋東南)
室谷 定亮 (名古屋東南)
川合 勝美 (豊田中)
近藤 正俊 (岡崎城南)
羽佐田芳和 (西尾)
名倉 省三 (西尾)

神田愛知県知事、 松原名古屋市長に就任ご挨拶



岡部快圓ガバナーは7月5日(金)伊藤宏地区幹事、受入青少年交換学生バネッサニッキさん(アメリカ出身)、米山奨学生呉岳樺くん(台湾出身)他3名を伴い、午前、名古屋市長、午後、愛知県知事をお訪ねし、ガバナー

就任挨拶を致しました。

神田知事からは開口一番大変な激務とお聞きしております、お体に気をつけて1年間頑張ってくださいと激励を受けました。続いて、2005愛知万博に話が及び、会場にロータリー館が開設されることにも感謝の言葉あり、又、話が弾み同行した米山奨学生には、将来祖国を代表するような国際人になって下さいとお言葉を頂きました。

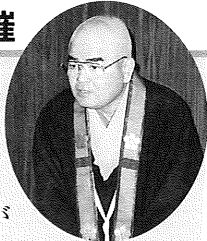
松原市長にも就任ご挨拶に続いて、R Iのテーマ、ラタクル会長のお人柄などに話が及びました。続いて、松原市長から、2つお願いがありますとして、一つは、2005万博には全世界から多数の青年が来日します。国際交流の経験豊富なロータリアンの皆さんに、彼らに日本の文化を理解してもらうためにホームステイ先を充実させたいので是非と。今ひとつは、名古屋城本丸御殿の復元にも、尽力されたいと申し出がありました。

第1回ガバナー補佐会議開催

日時 平成14年7月1日(月)

14:00~16:00

場所 大須観音宝生院内



本年度第1回ガバナー補佐会議が大須観音宝生院にて開催されました。

最初に岡部ガバナーの挨拶で、世界大会に出席して、あらためてR Iの仕事ができることを幸せに思うと決意を伝えられました。

議事

(1)「ロータリー財団」

「ポリオプラス特別寄付」について

石川敬 地区ロータリー財団委員長

(2)「派遣メンバー募集」来春オーストラリアへ

地区ロータリー財団委員会

(研究グループ交換発表会 G S E)

(3)ガバナー補佐事前訪問について

(4)次期ガバナー補佐選出方法について

(5)ガバナー事務所ホームページについて

(6)ライラのリスト

ライラ委員長の所属R Cが委員長になっていただいています。

地区R C C委員会の今年度計画について

地区R C C委員長 川井健司

R C C (ロータリー地域社会共同隊)は、今全国に24グループ結成され、そのうち11グループが当地区にあって活発な奉仕活動を展開しています。また地区R C C全体会議を毎年開催して情報交換、交流親睦を図ってきました。その結果、地区内ではR C Cについての認識度も高くなりました。

そこで今年度は視点を変えて、当地区R C C委員会が発信基地となって、全国の地区のロータリークラブのR C C結成を呼びかける第一歩として、「R C Cのすべて・全国R C C事例集」の冊子発行を企画しました。すでに24グループからのアンケート回収も終え、各資料の整理、編集にかかっています。

なお今年度は予算の関係などもあって、地区R C C全体会議は行わず、冊子の発行のみに取組むことにしました。

ガバナー月信への 投稿のお願い

3名の月信担当で頑張っています。今後、各クラブ、各分区の情報、地区各委員会の各種活動などを順次掲載したいと思います。つきましては、各種情報をガバナー事務所・月信担当までどしどしお寄せ下さい。

詳細・お問い合わせ

〒460-0011 名古屋市中区大須2-21-47 大須観音宝生院内

TEL (052) 229-8110 FAX (052) 232-1023 E-mail: governor02-03@rotary2760.org 事務局：西川

ガバナー事務所

2002-2003年度

ROTARY INTERNATIONAL

国際ロータリー第2760地区 地区大会

2002年11月16日(土)・17日(日)・18日(月)

会場／ウェスティンナゴヤキャッスル・南愛知カントリークラブ

登録料／(本会場) 会員／12,000円 ご家族／6,000円

(R.I.会長代理ご夫妻歓迎晩餐会) 会員／18,000円

ホストクラブ

南吉のふるさと

半田南

ロータリークラブ

..... ごあいさつ

国際ロータリー 第2760地区ガバナー 岡部 快圓

大会実行委員長 半田南ロータリークラブ 清水 良三

本年度地区大会は「慈愛の種を播きましょう」のテーマのもと、半田南R.C.のホストによって開催いたします。

本大会が朋友との心温まる交流を促し、参加ロータリアンに感銘を与え、地区内クラブやR.I.全般に関するプログラムの大いなる推進力となることを希望します。

また、今回は地区委員会と各クラブの間を太いパイプで繋ぎ、地区からクラブへより多くの情報を発信する機会として、地区やクラブの成功プログラムを展示するブースを設けました。是非今後の奉仕活動の参考にさせていただきます。

半田南R.C.の皆様が一年間に亘って準備された友情に報いるためにも、一名でも多くの会員、佳配のご参加を心よりお待ちしております。

創立以来まだ日も浅く、会員数も60名に満たない小さなクラブですが、地区大会のホストをお引き受けして以来ガバナーのご指導と、先輩クラブの業績を参考にさせて頂いて準備を進めて参りました。

今年度の地区大会に関するガバナーの指導方針は、誠に明快で、ご挨拶の通りです。

ホストの私共は基本方針にもとづき、慈愛の精神と、思いやりの心で、皆様をお迎えできるように計画致しております。華美ではないけれど、楽しい思い出を持って戴けるような大会に致します。

クラブ員全員が一丸となっておもてなしをするつもりです。是非とも皆様方のご参加をお願い致します。

Meeting Program

第1日目

11月16日(土)

会場／ウェスティン
ナゴヤキャッスル

- 10:00 受付開始
- 11:00 地区諮問委員会
- 12:30 R.I.会長代理を囲む昼食会
- 13:00 本会議登録受付
- 13:50 R.I.会長代理ご夫妻入場
- 14:00 開会・点鐘
- 14:35 R.I.会長代理挨拶
- 15:05 各委員会報告
- 15:25 休憩
- 15:45 ロータリーミーティング
パネルディスカッション
「新世代がロータリーに
期待するもの」
出席予定者／米山奨学生、財団奨学生
ローターアクト
インターアクトetc.
- 17:15 閉会・点鐘
- 17:30 晩餐会受付開始
- 18:00 R.I.会長代理ご夫妻歓迎晩餐会
- 18:35 乾杯
- 20:00 終了

第2日目

11月17日(日)

会場／ウェスティン
ナゴヤキャッスル

- 9:00 本会議登録受付
- 9:40 本会議2日目オープニング
- 9:55 R.I.会長代理ご夫妻入場
- 10:00 開会・点鐘
- 10:01 国歌「君が代」斉唱
- 10:10 開会のことば
- 10:15 来賓・特別出席者の紹介
- 10:30 R.I.会長メッセージならびに現状報告
- 11:00 目録贈呈、来賓祝辞(半田市長他)
- 11:10 感謝状贈呈、表彰
- 11:30 祝電披露
- 11:40 昼食
- 13:00 本会議2日目午後の部開会
- 13:20 記念講演
「どうなる日本の政治と経済」
政治評論家／森田 実氏
- 15:10 目録贈呈(愛知県知事)
- 15:15 来賓祝辞
- 15:25 講評
- 15:40 閉会・点鐘

第3日目

11月18日(月)

会場／南愛知
カントリークラブ

- 7:00 登録受付
- 7:30 スタート
- 15:00 表彰式

- 参加料／16,000円(メンバー)
27,000円(ビジター)
- 競技規則／ダブルバリア方式

アクセス

- お車／愛知・大高I.C.(名古屋高速)→
美浜I.C.(知多半島道路)→
ゴルフコース。50km、45分。
- 電車／名鉄内海線野間駅下車、徒歩10分。
名鉄河和線河和駅下車、タクシー10分。

地区大会事務局

〒475-0874 半田市銀座本町1-1-1 半田商工会議所内3F

TEL 0569-32-1955 FAX 0569-32-1956

ガバナーエレクト事務所 開設のお知らせ

2003～2004年度ガバナーエレクト
豊島 徳三（一宮北RC）

記

事務所 〒491-0873 愛知県一宮市せんい2-5-11
豊島株式会社 一宮本店内
電話番号 0586-75-7071（代表）・0586-75-7072
FAX 0586-77-1582
E-mail: governor03-04@rotary2760.org
勤務時間 10:00～16:00
土曜・日曜・祝祭日は休ませて頂きます。
休務日もご連絡はFAX又はEメールでお願いします。



文庫 通信

178号

興味ある文献から

- ◎『私の宣言』 アーサー・フレデリック・シェルドン
(1911年8月23日全米ロータリークラブ連合会議事録:
田中毅PG邦訳) 4p
[申込先:ロータリー文庫(コピー)]
- ◎『三つの山脈 ロータリーの百年』
津田進 千曲川RC 2002 40p
[申込先:千曲川RC FAX(0267)86-5925]
- ◎『ロータリーの奉仕の意義』 坂田元記 1988 8p
[申込先:ロータリー文庫(コピー)]
- ◎『自問自答の採点表』 D.365 1971 3p
(『職業奉仕の勘どころ』より抜粋)
[申込先:ロータリー文庫(コピー)]
- ◎『奉仕の理想探求語録集』 長崎東RC 2002 60p
[申込先:長崎東RC FAX(095)821-5857]
- ◎『良き市民とは…その心得十カ條』
伊藤次郎左衛門編輯 21p
[申込先:ロータリー文庫(コピー)]
- ◎『我が国の福祉』 寛仁親王殿下 2002 9p
(D.2590地区大会講演)
[申込先:ロータリー文庫(コピー)]
- ◎『本当に可愛がるとは』 川嶋優 2002 9p
(D.2710地区大会講演)
[申込先:ロータリー文庫(コピー)]
- ◎『小学校でお話する「ロータリーの綱領」
[ロータリーの目的]』 佐藤千壽 2001 1p
(ロータリーの友)
[申込先:ロータリー文庫(コピー)]
- ◎『我々は、青少年のために何が出来るか?』
津田健三 2002 6p (D.2500地区大会講演)
[申込先:ロータリー文庫(コピー)]

179号

新世代の人たちに聞いてほしい講話

- ◎『私の転機～ロータリーが果たした役割』
池ノ上克 他 2002 25p
(D.2730地区大会シンポジウム)
- ◎『人生の選択』 大橋巨泉 2002 14p
(D.2610地区大会講演)
- ◎『人間一人では生きられない』 高橋堯昭 2002 2p
(D.2830地区大会講演)
- ◎『21世紀に向けての新世代奉仕』
重田政信 2001 9p (D.2500地区大会講演)
- ◎『歴史の中から見たリーダーの条件』
童門冬二 2002 8p (D.2790地区大会講演)
- ◎『自然保護大国でなければ21世紀は生き残れないー
クマの棲む豊かな森を次世代へ』
森山まり子 2002 16p
(D.2680地区大会シンポジウム)
- ◎『国際宇宙ステーションの世紀
守ろう地球 めざそう宇宙』 菊山紀彦 2002 14p
(D.2680地区大会講演)
- ◎『小説家の頭』 阿刀田高・阿刀田慶子 2002 19p
(D.2720地区大会講演)
- ◎『人類への貢献』 奥貫一之 他 2002 33p
(D.2510地区大会フォーラム)
- ◎『これからの日本』 竹村健一 2002 11p
(D.2820地区大会講演)
- ◎『子どもたちは今「命を育て、心を結ぶ」』
横川遊亀壽 2002 17p
(D.2670地区大会講演)
[上記申込先:ロータリー文庫(コピー)]
- ◎『二十一世紀の教育を考える』 2002 61p
(D.2660IM記録誌)
[申込先:大阪城北RC FAX(06)6352-6207]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7F
TEL (03) 3433-6456 FAX (03) 3459-7506
<http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館/午前10時～午後5時 休館/土・日・祝祭日

会員数及び出席報告 (平成14年7月分)

分 区	クラブ名	会 員 数		入 会		退 会		例 会 数	7月 出席率	女 性
		2002年 7月1日	2002年 7月末日	7月	累計	7月	累計			
南 尾 張 分 区	半 田	70	70	0	0	0	0	5	100.00	4
	常 滑	59	62	3	3	0	0	4	96.63	0
	東 海	55	55	0	0	0	0	4	92.73	3
	東 知 多	62	63	1	1	0	0	3	100.00	0
	半 田 南	58	58	0	0	0	0	5	98.55	1
	知 多	36	36	0	0	0	0	5	87.22	0
	6RC	340	344	4	4	0	0	26	575.13	8
西 尾 張 分 区	一 宮	80	79	0	0	1	1	4	100.00	0
	津 島	80	80	0	0	0	0	4	99.26	1
	尾 西	42	42	0	0	0	0	4	95.24	0
	稲 沢	65	65	0	0	0	0	5	92.67	0
	あ ま	93	93	0	0	0	0	5	97.77	0
	西春日井	40	40	0	0	0	0	5	98.89	2
	尾張中央	51	51	0	0	0	0	5	94.40	0
	一 宮 北	63	63	0	0	0	0	4	95.12	0
	一 宮 中央	64	63	0	0	1	1	5	95.20	5
	9RC	578	576	0	0	2	2	41	868.55	8
東 尾 張 分 区	瀬 戸	82	83	1	1	0	0	4	100.00	3
	犬 山	84	85	1	1	0	0	5	99.74	0
	江 南	67	67	0	0	0	0	4	96.41	1
	小 牧	70	71	1	1	0	0	5	83.33	1
	春 日 井	80	80	0	0	0	0	4	97.23	4
	尾 張 旭	46	47	1	1	0	0	4	99.46	0
	名古屋空港	54	54	0	0	0	0	5	100.00	0
	瀬 戸 北	74	74	0	0	0	0	5	100.00	3
	岩 倉	27	27	0	0	0	0	5	86.89	0
	豊山-城北	35	37	2	2	0	0	5	95.48	1
	愛知長久手	20	20	0	0	0	0	4	62.50	0
	11RC	639	645	6	6	0	0	50	1021.04	13
西 名 古 屋 分 区	名 古 屋	197	205	8	8	0	0	5	93.53	0
	名 古 屋 西	118	120	2	2	0	0	4	94.31	0
	名 古 屋 南	121	121	1	1	1	1	4	99.17	0
	名古屋みなと	99	101	2	2	0	0	4	100.00	0
	名古屋東南	81	84	3	3	0	0	5	95.98	5
	名 古 屋 中	145	145	0	0	0	0	5	99.32	0
	名古屋瑞穂	81	83	2	2	0	0	4	97.82	0
	名古屋大須	68	68	0	0	0	0	4	97.64	0
	名 古 屋 栄	80	83	3	3	0	0	5	98.75	0
	名古屋名駅	101	101	0	0	0	0	5	97.09	2
	名古屋名南	80	80	0	0	0	0	5	99.19	14
	名古屋西南	55	55	0	0	0	0	4	98.50	9
	12RC	1226	1246	21	21	1	1	54	1171.30	30
	平均出席率	79	96.32							

分 区	クラブ名	会 員 数		入 会		退 会		例 会 数	7月 出席率	女 性
		2002年 7月1日	2002年 7月末日	7月	累計	7月	累計			
東 名 古 屋 分 区	名 古 屋 北	105	106	1	1	0	0	4	99.46	0
	名 古 屋 東	98	98	0	0	0	0	5	96.77	0
	名古屋守山	69	71	2	2	0	0	5	94.47	6
	名古屋和合	99	101	2	2	0	0	5	100.00	0
	名古屋名東	75	75	0	0	0	0	5	100.00	6
	名古屋名北	56	55	0	0	1	1	5	98.57	7
	名古屋千種	69	70	1	1	0	0	5	94.69	6
	名古屋昭和	71	71	0	0	0	0	5	98.51	0
	名 古 屋 錦	41	40	0	0	1	1	5	95.79	8
	名古屋東山	58	62	4	4	0	0	4	96.72	0
	10RC	741	749	10	10	2	2	48	974.98	33
東 三 河 分 区	豊 橋	118	118	0	0	0	0	4	97.79	4
	蒲 郡	68	69	1	1	0	0	4	92.16	0
	豊 橋 北	105	105	0	0	0	0	5	97.47	2
	豊 川	75	75	0	0	0	0	5	97.74	0
	田 原	70	71	1	1	0	0	4	93.05	1
	豊 橋 南	68	69	1	1	0	0	5	99.29	0
	新 城	68	68	0	0	0	0	5	95.08	0
	渥 美	43	43	0	0	0	0	4	91.93	0
	奥 三 河	35	35	0	0	0	0	3	92.30	3
	豊川宝飯	58	59	2	2	1	1	5	96.31	0
西 三 河 中 分 区	豊橋ゴールドデン	71	72	1	1	0	0	5	92.71	0
	田原パシフィック	71	71	0	0	0	0	5	96.01	0
	豊 橋 東	51	51	0	0	0	0	5	100.00	0
	13RC	901	906	6	6	1	1	59	1241.84	10
	岡 崎 崎	109	109	0	0	0	0	5	99.20	0
	豊 田	85	89	4	4	0	0	4	99.30	0
	岡 崎 南	108	108	0	0	0	0	4	99.40	3
	豊 田 西	97	101	4	4	0	0	5	100.00	0
	岡 崎 東	90	90	0	0	0	0	4	98.68	0
	豊 田 東	85	85	0	0	0	0	5	98.87	0
西 三 河 分 区	岡崎城南	75	76	1	1	0	0	5	97.87	0
	豊田三好	27	27	0	0	0	0	5	83.80	3
	豊 田 中	57	57	1	1	1	1	4	100.00	4
	9RC	733	742	10	10	1	1	41	877.12	10
	刈 谷	92	92	0	0	0	0	5	100.00	0
	安 城	71	71	0	0	0	0	4	98.45	1
	西 尾	76	78	2	2	0	0	5	97.63	1
	碧 南	76	80	4	4	0	0	5	98.48	0
	一 色	42	42	0	0	0	0	4	96.43	0
	高 浜	48	49	1	1	0	0	4	98.81	3
西 三 河 分 区	知 立	64	64	0	0	0	0	5	95.85	0
	西尾KIRARA	61	61	0	0	0	0	4	98.75	0
	三 河 安 城	49	49	0	0	0	0	5	94.88	2
	9RC	579	586	7	7	0	0	41	879.28	7
	地区合計	5737	5794	64	64	7	7	360	7609.24	119

地区内クラブ数 79RC	2002.7.1 会員数	5,737名	増加会員数 (累計)	64名
	当月末会員数	5,794名 (内女性120名)	減少会員数 (累計)	7名
	当月平均出席率	96.32%	差引純増会員数 (累計)	57名



表紙を語る

織田信長画像 (愛知県指定文化財)

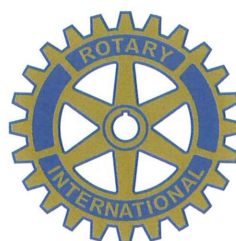
江戸時代

名古屋市中区大須 総見寺蔵

戦国の風雲児・織田信長は、天文3年(1534)、勝幡城(海部郡佐織町)で生まれました。当時の尾張は群雄割拠の状態でしたので、信長にとって尾張を支配することが第一の急務で、岐阜城の斎藤龍興を滅ぼしたとき、初めて天下統一の戦いが始まったといえます。

天正10年(1582)、信長は本能寺で明智光秀に討たれ、その菩提寺として大徳寺総見院、安土の総見院、清須の総見寺などが建てられました。信長の3男・信雄が建てた清須の総見寺は、名古屋城の築城とともに現在地に移転しました。本図は狩野永徳が描いた信長像を、曾孫の常信が模写したのですが、信長の容貌と永徳の画風を伝えています。

(名古屋市博物館 学芸員 鳥居和之)



ROTARY
INTERNATIONAL
DISTRICT 2760

国際ロータリー第2760地区
ガバナー 岡部 快圓

〒460-0011 名古屋市中区大須2-21-47 大須観音宝生院内

TEL 052-229-8110 FAX 052-232-1023

URL : <http://www.rotary2760.org>

E-mail : governor02-03@rotary2760.org
